

ふるさとの
文化財探訪

古文書をひらく

文化財調査員 音成 葉子

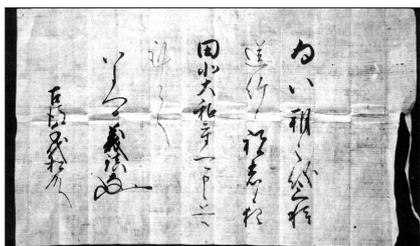
月に一度、南山田公民館にて行われる古文書講座に通い始めました。入門編として用いるのは「御仕置五人組帳」です。江戸時代、幕府より全国的に通達された農民

ただだ見入ったことを覚えています。切封という文書の端を細く切り、折り畳んだ文書を結う紐状のものも、包紙と呼ばれる封筒の様な役割をするものもそのままで、古文書自体も虫損など無く、代々大切に保管されてきたことが伺えました。

講座へ通い出してまず思い出したのがこの古後文書です。そして読んでみたり古後文書の資料本を借りました。無知な私が調査員としてここに寄稿することは大変恥ずかしいのですが、これらの古文書を通して一字一字から一つの言葉、時代背景へと興味を移しながら知

他の参加者と共に、一文字ずつ読んでいきますと次第に、繰り返される文字が記号のように浮かび上がり文章全体が見えてきます。

私が初めて古文書を目にしたのは四年前、九重町栗野の古後粒勝氏所蔵の「古後文書」です。大分県文化財指定の資料によりまずと、「古後文書は、豊後清原一族で玖珠郡十二家の一つである古後家に伝来する古文書で天文初年から天正末年（一五三二年～一五八七年）頃までの中世文書三十七点からなる。大友義鑑・義鎮（宗麟）・義統三代の発給文書が大半を占め、包紙や切封など当初の形態をよく残す文書群」と記されています。初見時の私は何も解らないまま、目の前に置かれた古後文書そのものの美しさにた



面白さを感じているのかもしれない。古後文書資料『西国武士団関係史料集二十八 古後文書』（図書館貸出可）

幸せになろうね

人権

心の扉

No.307

教育振興課に部落差別解消推進指導員が配置されています。指導員は日々の生活の中で感じる疑問点などを話題として発信しています。

その中の一つ、「六曜」について今回考えてみたいと思います。

六曜は、大安や仏滅といった表記です。友引・先負・仏滅・大安・赤口・先勝の6つがあり、今もお、多くのカレンダーや手帳に記載され、結婚式や葬儀の日取りに影響したり、引っ越しや納車など物事を行う日の縁起が良い、悪いという話を聞くこと

もあります。この六曜については鎌倉時代末期に中国から伝わったとされ、起源についてもはっきりとは解っておらず、元々は日の吉凶を表すものではなかったようです。仏滅においては、中国から伝わったときは、「空亡/虚亡」と表記されていて「仏が滅びる大凶日」という考えはなく、時代とともに意味が変化しています。仏教との関連もないとされ、科学的な根拠もありません。

九重町で2018年に行われた人権意識調査では、六曜についての問いに、「知っているが気にしない」が約43%、「気にする」が約31%、「気にしないが周囲から気にすると言われる」が17%となっており意識は変わってきているようですが、まだ多くの方が昔からのなごりを気にしているようです。

このような、言われのないものを信じるのが差別を助長することにつながるため、私たちは物事の内容をよく見極め、行動をしていくことが大切だと思います。

教育振興課